

第13回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
議事要旨

あいさつ

出雲河川事務所長

生態系ネットワークの取組みの上で、どのように持続性を持たせるかがポイントとなると考えている。本日は、前半は活動の報告を中心とし、後半は水鳥プロジェクトの今後10年の方向性について皆さんとともに話し合っていきたい。

議事

議事（1）規約の改正について

（規約変更案の説明）規約第10条および第11条、名簿変更による改正について説明

（本議題について質疑なく承認）

議事（2）生物多様性に関する国内外の動向と斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想について

（資料1：「生物多様性に関する国内外の動向と斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想について」の説明）

座長

水鳥プロジェクトは、今後大きな問題となる気候変動・大災害等のリスクに対し、自然を指標とした安定した地域社会づくりがその軽減につながるという前提で議論を進めてきている。我々は本来自然を資本として、その利息の範囲の中で暮らしていくべき。そうした社会が構築されない限り、持続可能な未来は訪れない。

委員

企業・金融機関として、温室効果ガス削減の取組、生物多様性保全の取組を進めている。温室効果ガスの削減は分かりやすく、行動しやすい。他方、生物多様性保全については本当に貢献しているのか実感があまりなく、出来ていないと感じている。

生物多様性保全に向け、民間企業として実行可能な取り組みについて情報をいただけるとありがたい。

議事（3）専門ワーキング報告、および水鳥プロジェクトの活動報告

（資料2：「専門ワーキング報告、および水鳥プロジェクトの活動報告」の説明）

座長

当協議会の活動主体である各ワーキンググループにおいて様々な活動、議論をおこなっている。特に水辺環境・鳥類合同ワーキングにおいては、具体的な河川（堤外地）での自然再生事業を治

水と利水等の観点も踏まえながら生物多様性に貢献できるよう調整するかという課題と併せて、堤内地においても生物多様性へどのように貢献出来るかの課題がある。

特に堤内地の農地環境については、トキの放鳥も含め大型水鳥類の採食地となる田圃等の維持継続が非常に大きな課題である。

委員

ハクチョウ類等大型水鳥が日中過ごす水田環境は担い手不足等により減少の一途。経済的に持続できる営農システム構造を面的に広げることが非常に大事である。

行政委員

農地環境維持は地域づくりと直結しており、担い手の確保には非常に苦勞している。交流人口・関係人口の創出・拡大に力を入れているところで、これが重要だと思っている。

委員

農地の自然共生サイトへの登録も持続可能性を高める一つの手段。

計画を作る際に連携増進活動実施というものがあり、自治体が窓口となりサポートを行う。米子市ではそういった取組みを行い、水鳥公園を登録している。

島根県側でも自治体から積極的に呼びかけ、関心のある農家に登録してもらい、トキを受け入れる水田環境を担保する、この仕組みを非常にうまく生かせるのではないかと思う。

行政委員

自然共生サイトが法制化し、法律になってから、島根県や鳥取県で先進的に認定、取組みを進めていただいているところ。市町村がまとめて進める計画づくりと、それぞれ申請者が個人的に申請する方法がある。地域にとって良い形で進めていただければと思うので相談されたい。

委員

漁協の人間として、水辺環境の整備にあたり国や自治体の、自然を守りとりもどす動きに期待している。神戸川ではワンドの整備も進められているほか、魚道の修復が昨年行われた。結果、アユが堰を越えて上流まで遡上することが確認された。こうした「取組」と「効果」があると、わかりやすく自然を守りとりもどす取組みを伝えやすく、環境学習を進めていく上でも有効だと感じた。

アドバイザー

佐渡島は県管理河川でも自然を守る取組を行っているが、トキが採食している場所は水田が大部分である。しかし、夏になると稲が伸びてトキが田面に入りづらくなり、周りの「江」や畦畔で採食行動をとっている。江の確保や除草剤を使わない畦畔管理により、トキの食物資源が確保されていると言える。

議事（４）協議会委員等の活動状況報告

（資料３-１：「コウノトリやトキと共に生きる環境づくり 地域づくりの取り組みについて」、資料３-２：「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり」の説明）

委員

出雲市、雲南市には江のついた農地が複数あるが、この報告ではその大部分が追加的整備が必要という結果となった。実際、ドジョウはごく一部にしか生息していない。来年に出雲市でトキの放鳥を控えているが、放鳥された後も含め、江の整備などいろいろなことをより積極的に進めていく必要がある。

議事（５）トキの放鳥に向けた取組について

（資料４-１：「石川県能登地域でのトキの野生復帰について」、資料４-２：「出雲市トキによるまちづくり構想 アクションプラン 2030 取組状況」）の説明）

出雲市長（ビデオメッセージ）

出雲市としては、来年の放鳥決定は通過点の一つに過ぎないと考えている。出雲河川事務所による河川の自然再生を進めていただいているところ。市としても鋭意環境づくり、地域づくりを進めていきたい。トキの定着には広域による生態系ネットワークの形成、そしてより一層の広域連携が必要だと考えている。座長や委員の先生方、そして構成自治体、関係機関の皆さま方の一層のご理解、ご支援をお願い申し上げる。

委員

銀行の取組として、地域商社というものをつくり、地域の農業産品を地域以外に売り農業者の収入を増やす取組を続けている。本日、農産品の販売が生物多様性保全に関係するという気づきを得た。引き続き、皆様よりアイデアをいただければありがたい。

議事（６）短期目標達成状況の評価と今後の取組について

（資料５：「短期目標達成状況の評価と今後の取組について」の説明）

座長

短期目標の達成評価と今後の取組については、各ワーキンググループにて確認いただき、次回協議会に諮ることとする。

委員

短期目標１に関連すると思うが、少し前の新聞で、安来市に出雲村田製作所の工場が建設されると聞く。事実ならば短期目標１、中期目標１に影響するのではないか。具体的な対策はすぐには思いつかないが、環境に関心のある企業ならば、連携の可能性はあるのではないかと考える。

出雲河川事務所長

本協議会は斐伊川流域ということで進めているが、神戸川流域の大田市について事務局から説明し賛同が得られれば、オブザーバーとして参加していただく。

以上